

傷の補修から鉄部の防錆、穴の開いた鋼板の応急処置までいろいろ使える!

ラストプロテクトシート

RUST PROTECT SHEET

■ 特長

【3層構造】

★特殊コーティング層

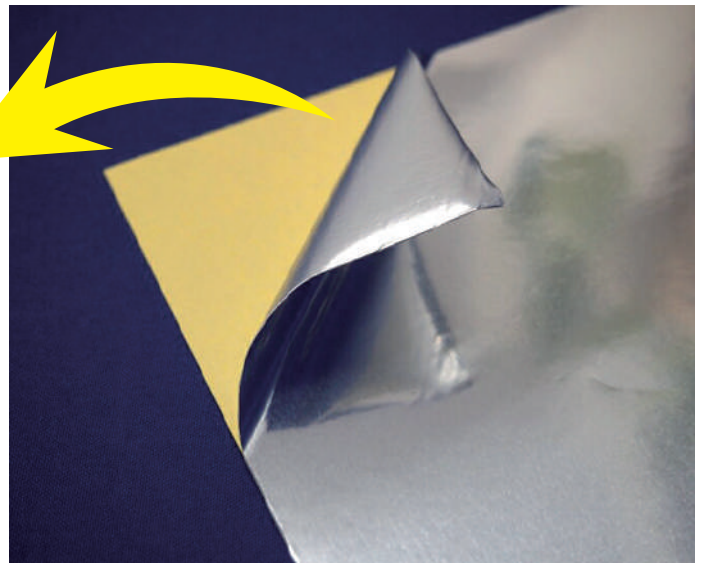
- ・アルミに耐薬品性と耐腐食性を与えます。
- ・塗料を直接塗装できます。

★アルミ層

- ・他の金属に比べ伸びやすく錆面や基材の柄などの凹凸になじみます。
- ・ガスや液体を100%バリアでき防錆力を高めます。

★粘着層

- ・強力な粘着力で多くの素材に密着します。
- ・独自の組成により防錆能力を有します。



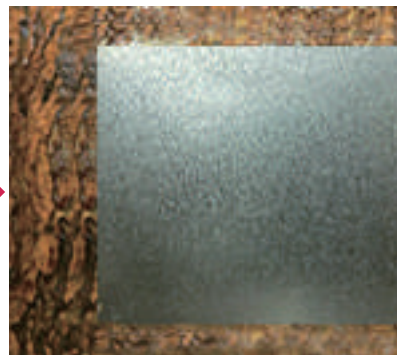
■ 防錆力

ラストプロテクトシートは、粘着剤の特殊加工により、鋼材面の錆の発生や進行を大幅に遅らせることができます。

鋼板にラストプロテクトシートを貼り付けて曝露を実施



塩害



テープで保護された部分に錆の発生は見られません。

錆びた鋼板にラストプロテクトシートを貼り付けて曝露を実施



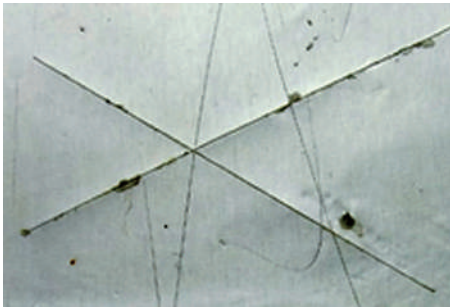
塩害



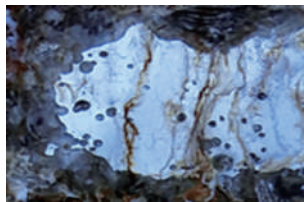
テープで保護された部分の錆面は黒錆に変わり錆は進行しません。

■ 耐久性

表面の特殊加工により、テープの上へ塗装をすることが可能です。またそのままでも卓越した耐久性を有しています。



クロスカットを入れ塩水噴霧試験3000時間実施した後も白錆などの発生は見られません。



通常のアルミテープは塩水噴霧試験150時間で白錆が発生し腐食していきます。

耐酸性	5%硫酸水溶液に24時間没水	コーティングの剥離やアルミ層の劣化など異常は見られません。
耐アルカリ性	飽和水酸化カルシウム水溶液に24時間没水	
耐温水性	50℃温水中に500時間没水	

■ 付着性

特殊な粘着剤であらゆる素材に強固に密着します。



上塗りを塗装したラストプロテクトシートをサイディングボードに貼り付け、沖縄で3年曝露した後も、剥離など異常は見られません。

■ 施工例

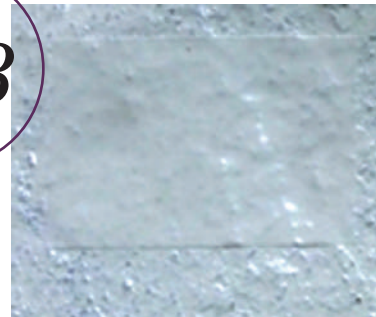
Step 1



下地処理

浮いた錆は取り除き(3種ケレン程度)水洗いした後、十分乾燥させる。

Step 3



下塗り

下塗り塗料を1~2回塗装する。

- (塗装可能な下塗り)
- 一般錆止め
 - フェノール系
 - 塩ゴム系
 - エポキシ系(1液)
 - エポキシ系(2液)

ラストプロテクトシートの貼り付け

穴の開いた場所にラストプロテクトシートを張り、押しつけて凹凸になじませる。

Step 2

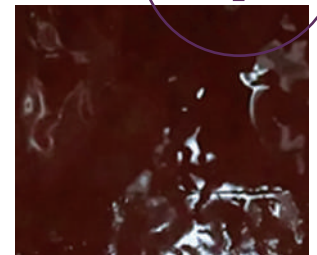


上塗り

上塗り塗料を塗装する。

- (塗装可能な上塗り)
- 合成樹脂ペイント
 - ラッカーペイント
 - フタル酸ペイント
 - アクリルペイント
 - ウレタンペイント
 - エポキシペイント
 - 水性ペイント

Step 4



■ 用途提案

- カラー鋼板などの傷に、あらかじめ同じ塗料を塗装したテープで補修する。(タッチアップ用の塗料を液剤で在庫するよりも、シート化するとかさばらず、液剤劣化の心配もなく経済的です。)
- 特に錆びやすい場所にあらかじめ施工し、防錆性を強化する。

■ 注意事項

- ◆ 貼る面の、ゴミ、砂塵、油脂分、浮き錆を取り除き、乾燥した状態にして下さい。
- ◆ 貼る面に対して、粘着剤を隙間が空かないようしっかりと貼って下さい。
- ◆ さび面は凹凸が多く隙間が空きやすいので、上からギュッと押すように貼って下さい。